

点数 各項目20点満点

No	タイトル	投稿者	評価者	怖さ	鋭さ	新しさ	ユーモア	意外さ	合計	書評
308	蛻(もぬけ)	春粉亭(ぱるふんてい)きなこ	吉田猛々	17	16	17	18	17	85	ヒトコワのような雰囲気から恐怖の質が変容していく展開が印象的でした。
319	光バイト	にる	吉田猛々	17	17	18	17	17	86	世相を取り入れたタイトル、他に類を見ない内容が独創的でした。
354	令和都市伝説「ぬる様」	半分王	吉田猛々	17	16	18	17	17	85	オープンワールドのゲームという世界観が怪談とうまくマッチしており、新しさを感じました。
379	おとうとのともだち	かめ	吉田猛々	17	16	17	17	17	84	蓋をしていた記憶、奇妙な展開に思わず惹き込まれていく感覚を覚えます。
394	終了します	カエル文二	吉田猛々	17	18	17	17	17	86	スリリングな展開の演出が非常に巧妙な作品、手に汗握るという表現がはまる、珍しい怪談話。
407	生靈が死靈を食らうとき	垣坂弘紫(かきさかひろし)	吉田猛々	17	17	17	17	18	86	究極のヒトコワのような、人の想いの恐ろしさが詰まった内容に衝撃を覚えました。
446	赤い家の贊	宿屋ヒルベルト	吉田猛々	17	18	16	17	17	85	とても気味の悪い話。窓から西日が射し込むなどの情景が下敷きとして恐怖の底上げを効果的にしている印象でした。
473	あとしまつ	半分王	吉田猛々	17	16	16	17	16	82	集落、土着信仰という定番のテーマを良質にまとめた快作です。もっと長い文章で読んでみたいとも思いました。
455	ジースのおばさん	誠也 としひら	吉田猛々	16	17	17	17	16	83	そこはかとない悲しみのようなものが胸をうつ、強いリアリティを感じるお話。
509	秋霖	アリアの流星群	吉田猛々	18	18	18	17	17	88	文章から滲み出るような情景、どこか寂しげで危うい雰囲気が全編を通して感じられました。
542	誰かのためにできること	半分王	吉田猛々	18	17	17	17	18	87	一刻一刻と変わっていく展開、その中に疾走感を感じ、つい読み進めてしまう。悲しいラストも含めて強い個性を感じた作品。